

=主の前に立つ=

1. 主の前に入る

1-1 ひれ伏す、伏し拝む

礼拝での態度：① ひれ伏し、② 自分の冠を投げ出す。⇒ 自分の栄光を放棄。黙 4:10-11

新約の例：イエスに対して、癒しを願う人々。

1-2 立つ

祭司やレビ人の務めは立って神に仕えること。申命記 10:8、17:12、1列 8:11、2歴 29:11

重要な場面において立った（立たされた）例：

契約の箱を担いでヨルダン川に立った祭司達 ヨシュア 3:17、

アイの敗戦後のヨシュア ヨシュア 7:6-15、

イゼベルに脅されたエリヤ 1列 19:9-13

2. 祭司として立つ。

重要な祭祀の役割はとりなし ①民をいけにえの場（十字架）に立たせる、②主と民の間に立つ。

2-1 アブラハム ソドムとゴモラのためのとりなし。創世記 18:20-33

2-2 モーセ 子牛事件 詩篇 106:23、コラの反乱 民数記 16章、

2-3 とりなしのため、立って」おられるイエス。使徒 7:55-56、黙 5:6

3 主の前に立つには

素のままでは立てない。詩篇 130:3

聖所に入るための条件 ヘブル 10:19

- 立つ前提として「死」の状態 ⇒イエスが生きる
- 静（ひれ伏す）から動（立つ）へ、死（ひれ伏す）から復活（立つ）へ

4. 結論

エステル 5:1 さて、三日目にエステルは王妃の衣装を着て、王室の正面にある王宮の内庭に立った。王は王室の入口の正面にある王宮の玉座にすわっていた。

5:2 王が、庭に立っている王妃エステルを見たとき、彼女は王の好意を受けたので、王は手に持っていた金の笏をエステルに差し伸ばした。そこで、エステルは近寄って、その笏の先にさわった。